

# 喜多方市下高額地区

## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 転換畑における団地化、ブロックローテーション、排水対策・雑草対策の現地実証による収量の高位平準化
- 高タンパク小麦「夏黄金」の普及に向けた地域適応性の確認及び種子生産体制の構築
- 農商工連携（地場産業／製麺・飲食業者等の商工団体との連携）による小麦生産振興



「夏黄金」の採種ほ

## 2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- H30年法人化。水稻を主力に小麦等の水田転換作物、ネギ等の高収益作物の導入を進めている。  
〔R6年作付面積：水稻26ha、小麦5.3ha、ネギ1ha〕
- 小麦と水稻の2年3作ローテーション(水稻1作小麦2作輪作体系)  
**小麦作付の増加 R3年3.0ha → R6年5.3ha (播種年)**



小麦収穫作業  
〔雄国山麓を望む〕

## 3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

### <収量の高位平準化>

- 「弾丸暗渠」・「額縁明渠」併用による排水対策、越冬前の除草剤(土壌処理剤) 2回散布による雑草対策での収量の高位平準化技術の検討(新品種・新技術等実証ほを設置(R6年産小麦))

### <需要に応じた生産の取組>

- 中華麺適性が優る小麦「夏黄金」導入に向けた採種ほの設置(畑作物モデル地区等実証ほ設置による地域内の需要に応じた「夏黄金」の検討、製粉分析、製麺適性の評価(R7年産小麦))

## 4 取組成果

- 排水対策(弾丸暗渠+額縁明渠)、除草対策(越冬前の土壌処理剤2回散布)の徹底により、有効穂数や一穂着粒数が増加して、収量が100~250kg/10a増加した



図1 有効穂数と収量との関係 (R6年度現地実証ほ)

- 喜多方市やモデル地区の取り組みにより、収量、作付面積とも増加傾向にある

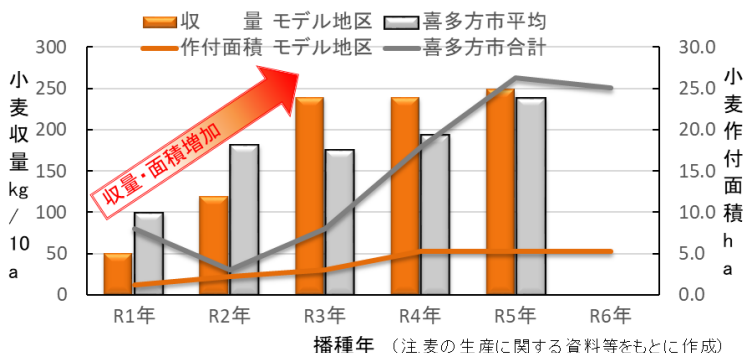


図2 収量及び作付面積の推移

## 5 課題（7年度のポイント）

- 畑作モデル地区等実証ほの設置運営、「夏黄金」の栽培マニュアルの作成・優良種子生産支援
- 畑作物生産振興支援チームによる「夏黄金」の地域適応性の検討及び普及
- 「夏黄金」の製粉会社による製粉分析、製麺・飲食業者等の商工団体による製麺評価(試食会)